

2022

8月号

- ◎ 「西施伝説」
- ◎ 「徐福東渡の伝説」
- ◎ 「錢王伝説」
- ◎ 「濟公伝説」

『民間物語』



浙江風雅大賞

でんせつ

誰もが知っていて、興味津々に語る民間の物語は浙江省のいたるところに存在しています。それらは神話や伝説の中の架空の人物に由来したり、または実在の歴史上の人物に由来したりして、古人の円満な生活への憧れと素朴な美的感覚を託しており、また様々な地域の伝説にまつわる豊かな民俗風物をもたっています。

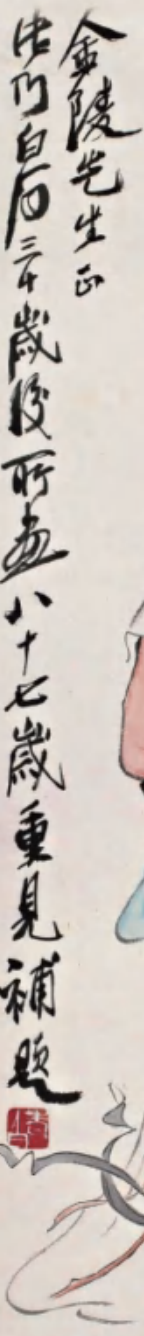


「西施伝説」

絶世の美人、国家を救う

紀元前473年、西施は越軍と協力し、呉の都である姑蘇を一挙に陥落させ、ついに越の君主と人民の期待に応えました。

これまでの20年間、西施は何度も選抜と厳しい訓練を重ねてきて、国の復興という使命を念頭に置いて、祖国を離れ、傾国傾城の美貌、優れた琴棋の技芸、天籟の歌声、絶美の舞姿により、武王の寵愛と耽溺を勝ち取って、呉国の君臣不和と国力の衰退を招きました。しかし、西施の最期はよく知られていません。



諸暨市



遊

西施故里觀光地
江南の穏やかな町に浸る

浣紗江のほとり、苧蘿山のふもと。山紫水明、民風は素朴で、西施の沈魚の美、芙蓉の姿を生み出し、江南女性独特の気質と優しさを彼女に与えました。今では、諸暨の浣紗江のほとりに沿って、拱橋を渡り、柳の木陰を潜って、漢服の少女たちは軽やかな足取りで、その瞬間、まるで千年前の越国に戻ったような気がします。



住所：紹興市諸暨市苧蘿東路2号



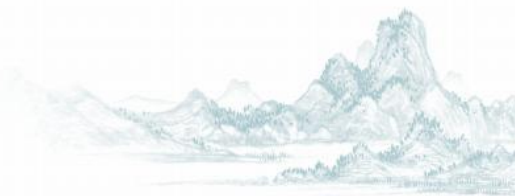
📍 観賞地：西施故里観光地(特別な祝日や祝祭期間中に公演)

罍芸

西施響屐舞
江南のしなやかな身のこなし

「木屐舞」とも呼ばれる「響屐舞」は、西施によって創作されたと言われ、武王に深く愛されました。足は木屐(下駄)を履き、スカートには小さな鈴が飾られており、踊ると、地面に踏んだ下駄とスカートに飾られた鈴が響き合い、独特の魅力があります。





罌節

三江口水灯祭
千年傳承する民間の追憶

諸暨領内の浦陽江、楓橋江、湄池江が合流する三江口は、当時吳国へ行くには必ず通らねばならない所であり、西施の船が通り過ぎる時、兩岸の村人たちは自発的に家を出て、この「国のために身を捧げた」美女を迎え、提灯と松明を持ち、薪を燃やして川に投げて彼女の前途を照らしました。それ以来、旧暦七月十五日の夜になると、川は水灯籠でいっぱいになり、月光の下で二本もの蠟燭が波に揺れて、きらきらと輝きます。



🕒 開催時期：毎年旧暦 7月 15日

📍 住所：紹興市諸暨市店口镇三江口村



📍 主産地：紹興市諸暨市趙家鎮

鹽食

香榧眼

複雑さをシンプルにする知恵

千年の歴史を持つ珍菓「香榧」(かや)は諸暨の千メートルの深山で生産され、美味で養生効果があり、偉大な詩人で美食家の蘇東坡が特に好んで食べていました。伝説によると、越王は殻の硬い香榧で西施の知恵を考査したところ、西施は慌てず、香榧の殻の上にある目に似た二つの突起をつまんで軽く押し、すると、澄んだ音と共に果肉が現れ、問題は簡単に解決されたと言われています。



「徐福東渡の伝説」

方士文人の海外探索の気魄

紀元前210年。秦の専制政治から逃れ、儒学者の子孫を迫害から守るために、徐福は海を渡り東に渡って霊薬を求めたいという装いで、秦始皇帝の支持を得て、数千人の少年少女と数百人の職人と兵士を率いて、浙江省から出航しました。そして彼は生涯二度と帰国せず、ついに日本に到着して、日中文化交流の先陣を切りました。佐賀県の金立山の神竈は依然として徐福を「医薬の神」、「農耕を司る神」として奉っており、毎年12月15日に徐福を記念して「収穫祭」が開催されています。





慈溪市

遊

達蓬山觀光リゾート
夢の出港地

「達蓬山」は秦の始皇帝の訪問によって名付けられました。ここから蓬萊仙境に到達できることを意味し、文人墨客が訪れ、仏教名士の静修地となっています。達蓬山は海拔442メートルで、峰々が群がり、溪流が蛇行して、青々とした緑に包まれ、高く登って遠くを眺めると、広大な東海が一望できます。磨崖石刻、秦渡庵、小休洞、走馬崗、飲馬潭、千人壇、龍門坊など様々な古跡が山の下に点在しており、まるで東渡出航時の壮観な光景を再現しているようです。



📍 住所：寧波市慈溪市龍山鎮徐福村



齧食

糟焼砂蟹

天地の勢いを拝借した知恵

東渡の食糧供給は大きな問題でした。慈溪海辺の浜辺には砂蟹がよく見られ、サイズは小さく数も多いので、塩漬けの方法で長期保存すると、新鮮な香りがしておいしい料理になり、東渡の成功の鍵となりました。現在、砂蟹の作り方にはこだわりが多く、軽くかじるだけで、殻から美味しい蟹の汁が流れてきて、鮮度と塩気がちょうどよく、香りが濃厚で、慈溪では見逃せない珍味となっています。





📍 観覧地：慈溪市人民大会堂（特別な祝日や祝祭期間中に公演）

👤 制作元：寧波市慈溪大徳戯曲芸術団

舞台

大型歴史伝奇越劇『徐福東渡』
2000年前の非凡な行動に臨む

徐福東渡の物語は、「中国オペラ」と呼ばれる古典戯曲形式の「越劇」を通じて再現されています。

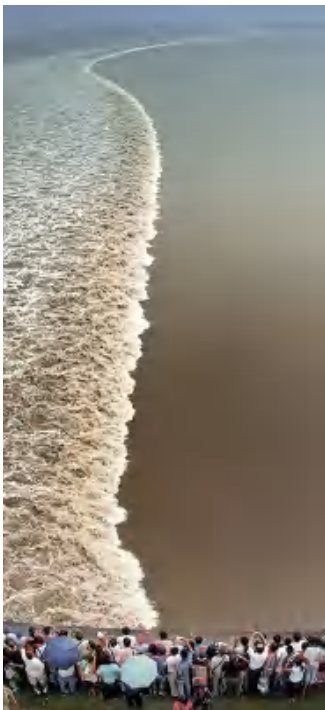
全体の公演時間は2時間。場面は壮大で、ストーリーは生き生きとしていて、クライマックスは繰り返し訪れ、美や雅が表現されており、江南の靈秀の気が溢れ出しています。「中日国交45周年記念」を祝うために、日本でも公演されました。



「錢王伝説」

乱世君主の民本位の堅持

軍閥が混戦する五代十国、錢鏐は両浙十三州の呉越国王として、戦争を避け、民力を養うという違う道を堅持しました。彼は農業を重視し、水利を興し、海運を開拓して、貿易を発展させた結果、呉越国は豊かで強力な土地となり、人々に深く愛され、称賛された物語も多く残されました。





杭州市

遊

錢塘江觀潮

王者の困難に立ち向かう覇気に思いを馳せる

旧暦8月18日、秋の太陽が眩しく輝き、黄金の風が心地よく吹きます。江潮と呼ばれる潮の逆流現象の時は疾走する千軍万馬のようで、観光客が群がり、奇観を見ようと競い合います。しかし、千年前の人々は、江の中の「潮の神」が波風を立てて、潮患が絶えず、両岸の農地を水没させたと考えていました。そこで、錢鏐は万人の弓兵を川辺に配置し、大潮が来ると一万という矢を一斉に放ち、矢で傷を負ったように見えた潮頭はくねくねと逃げ去りました。これにより、地元の軍民が海塘を建設する自信を持ち、潮患の苦境は徐々に緩和され、錢塘沿岸の富の基礎が築かれました。



🕒 江潮の見頃：旧暦8月18日の中秋節前後

📍 江潮に最適な場所：海寧市塩官鎮東南觀潮景区、杭州市蕭山区觀潮城

鹽食

錢王四喜鼎
千年の味 四方同喜

寒さが戻ってくるたびに、杭州人は新鮮な漬物を鍋に入れて、アヒルの肉と一緒にとろ火でゆっくり煮込みます。そのスープを飲み、アヒルを食べ、胃を温めるのが最高のひとときです。この食べ方は千年前、錢鏐が巡行に出かけた際、人々が彼への熱意と礼をもって接したことに由来しています。絶品の紹興麻鴨がもちろんこの料理の主役ですが、天母山の世に二つとないほどの新鮮な干し筍と塩気が程よくまろやかな金華ハムこそ、美しいスープを作る魂であり、鍋から立ち上る熱気と、それに伴って広がる塩香はいつまでも忘れられません。





📍 観賞地：杭州市臨安区青山湖錫光地(特別な祝日や祝祭期間中に公演)

🏢 制作元：杭州話劇院、杭州歌劇舞劇院、杭州雜技団



雲

大型歌舞劇『呉越風』
呉越の繁栄盛況に浸る

歌舞劇『呉越風』は新劇、オペラ、舞劇、雑技劇などの多種の芸術形式を融合させ、同時にオーロラ、プロジェクトションマップピングなどのマルチメディア舞台技術を用いることで、呉越国の創始者である錢鏐が錦を飾って故郷に帰り、国境を守って民を安らかにし、最終的に宋に帰順したという歴史物語を生き生きと表現します。

敬僧入聖者
不拘於外而

修其內也

著大宋游庵

大宋師

法第

永尚印

嗜酒且

醉於醉

遠高唱

酒鄉

物始之有

易為酒鄉頌

吾夜歸公其

時之志僧正已

庚午年秋大宋師

李二宋 寫意



「済公伝説」

顛僧遊侠の困窮救済

名門出身で、博識で、詩書が天下に知られている得道した高僧済公ですが、その姿はぼろぼろの服を着ていて、狂人のように振る舞い、座禅に耐えられず、酒と肉を好みました。彼は権力者と付き合いたくなくて、市井民間を遊歴するのを楽しんでいました。また彼は医術に通じており、庶民の難病を治しました。そして、不正と戦い、人々の紛争を止めさせ、悪を排除し、裏切り者を罰することも好んでいました。民間には独特の美しい物語が残され、世間から「済公活仏」と尊ばれ、歴代に祭られる神となりました。





天台県



📍 住所：台州市天台県国清寺村国赤路

遊

天台山国清寺
济公出家地・避世修行山水間

国清寺は、まるで千年も世を避けてきた君子のように、緑に染まった天台山の奥に隠れています。仏法は広大で、宗理は深いため、国清寺は古くから日本の僧衆に崇拜される天台宗の祖庭となり、鑑真、空海、最澄、栄西など次から次へと仏を拝んで法を学びに来ました。寺のまだらな山壁に沿って、一草一木とせせらぎの谷間を歩くことで、気持ちは清らかで穏やか、のんびりとリラックスできます。



選購

天台山雲霧茶・仏天雨露
玉茶の味わいと悟り

天台雲霧茶は、標高の高い山間の雲霧に長年に浸されていることからその名が付けられました。1700年以上前の漢王朝に最初に植えられ、唐と宋の時代に日本の僧侶によってその茶の種子が日本に持ち帰られ、日本の茶栽培と茶道文化の源となりました。伝説によると、濟公も雲霧茶を飲むのが好きだったそうです。茶の形は細くスツとしていて、緑色で水分が豊富、毛茸(もうじ)がついています。お湯を注ぐと茶の色は薄緑で明るく、香り高く、また鋭くて、口の中にその香りが漂い続けます。味は濃厚、新鮮、爽やかで、緑茶の中の珍品とも言えます。



📍 購入地：台州市天台县石梁镇華頂景区芽蓬茶園





齋食

餃餅筒

メリハリがあり、万物を包容

国清寺は、まるで千年も世を避けてきた君子のように、緑に染まった天台山の奥に隠れています。仏法は広大で、宗理は深いため、国清寺は古くから日本の僧衆に崇拝される天台宗の祖庭となり、鑑真、空海、最澄、栄西など次から次へと仏を拝んで法を学びにきました。寺のまだらな山壁に沿い、一草一木とせせらぎの谷間を歩くことで、気持ちは清らかで穏やか、のんびりとリラックスできます。





BEAUTIFUL CHINA PICTURESQUE ZHEJIANG

美麗中國·詩畫浙江

浙江省文化·觀光庁